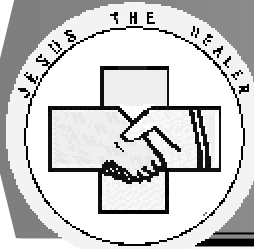


正誤表

- p15、荻野先生の亡くなられたのは3月4日です。訂正してお詫び申し上げます。
- p21、「お知らせ」で9月28日～10月2日の姫路聖マリア病院研修会の講師は**中島保壽**先生です。
- 別紙刷りの「一日研修会にふるってご参加を」の案内の中で、北九州ブロックで6月27日に行われます一日研修会の講師は「**中島保壽**先生」です。
こちらでも訂正してお詫び申し上げます。



スピリチュアルケア 第43号

特定非営利活動法人 臨床パストラル教育研究センター

2009.4.20

発行人：W.キップス

発行所：臨床パストラル教育研究センター

〒158-0095 東京都世田谷区瀬田 1-28-2

TEL 03-3700-3425 FAX 03-3700-3427

e-mail: tokyo@pastoralcare.jp http://pastoralcare.jp

スピリチュアルケア考

格闘技と攻めの養生

帯津 良一

医療も養生も身体（BODY）から生命（SPIRIT）へ転回をはじめた今、スピリチュアルケアの台頭も当然の帰結ではあるが、これが日常の医療の中にしっかりと定着するには、まだまだ相当の日時を要すると思っている。医療がスピリチュアルに未熟なのに、スピリチュアルケアだけが一人歩きするわけにはいかないからである。

昨日もこんなことがあった。場所は長野県の飯綱高原にあるホリスティック・スペース『水輪』。ここで本年度第一回の「養生塾」および「いのち学」の講座が開かれていた。三月も末というのに窓の外はまだ雪景色。それも新しい雪で、まさに銀世界だ。

それも参加者全員が大広間に車座になって質疑応答や意見交換を行う、ここでの名物番組である「車座交流会」が開かれていた。参加者はおよそ30名。大半はがん患者さん。家族の方々に医療者の方々がこれに加わる。3時間の長丁場、しかも2回おこなうので、治療や予防あるいは養生に関するさまざまな問題が提起され俎上に乗せられる。これは決して珍しいことではないのだが、ある肺がんの患者さんからの質問。

「・・・二度も手術をしていただいた、長いお付き合いの主治医先生ですが、コミュニケーションが悪くて困っています。思い切って主治医さんを代えてみてはとも思いますが、さりとて、いい先生に巡り合うとはかぎりませんし・・・このくらいな

ら我慢して、これまでどおりのお付き合いをしていたほうがよいのか・・・と困っています。どうすればよいのか教えてください・・・」

これを機にわれもわれもと同じような悩みが噴き出して、大きな渦となってしまったのであった。医師とのコミュニケーションの問題は『水輪養生塾』が始まってからおよそ10年間、いつも車座交流会の話題のひとつになっていた。しかし、これほどの大渦は初めてである。

拳句の果ては

「・・・医学教育の問題でしょうか？」

「・・・医師を目指す人の資質に何か片寄りがあるのでしょうか？」

「・・・いい医師を確保する為の妙案はないのでしょうか？」

10年、世紀が変わっても、旧態依然、何の進展もないようだ。唾然とはこのことである。患者さんはまちがいに進化している。そして身体だけでなく心にも生命にも目を向けてくださいよ。もっとホリスティックに扱って下さいよと訴えているのに医師のほうは相変わらず身体の故障の部位にしか目を向けようとしない。このギャップがコミュニケーションの悪さの原因になっているのではないだろうか。

人間は身体（BODY）心（MIND）生命（SPIRIT）から成っている。身体は目に見える肉体。生命は内なる生命場のエネルギー。心は刻々と変化する生命場の状況が脳

細胞をとおして外部に表現されたものと考え、心もその本質は生命場。となると人間は身体、心、生命の三者に分けるかわりに、身体と生命場と二つに分けることも出来ることになる。

20世紀、医療だけではなく、世の中のすべてが身体に焦点を合わせて一大物質文明を築いた。しかし、あまりにも多くの問題を残して、簡単にこう言い切るには内心忸怩たる思いがないでもないが、ここでは触れないことにする。

ひるがえって21世紀は生命場の時代である。医学もエネルギー医学が中心になる。エネルギー医学といえばホメオパシーや気功に代表される代替療法の多くがここに含まれる。すでに代替療法の台頭から総合医学へと向かう流れはかなり確かなものとなっているし、その先にホリスティック医学が待ち構えていることもまちがいないことである。

そして医療はといえば、身体の一部に生じた故障を、あたかも機械の修理のように直す修理工の医療から、生命と生命とがぶつかり合う格闘技の医療になっていく。

格闘技となれば、なんといってもパワフルでなければならない。そのパワーは内なる生命場の高いエネルギーから生み出される。だから医療者はすべからくスピリチュアルでなければならないのだ。

しかも、パワーを全開するためには相手と同じ地平に立たなければならない。つまり患者の痛みを同じ地平で受け止めるのである。このことを哲学者の中村雄二郎氏はヴァルネラブル(VULNERABLE)と表現した。癒しをおこなうものはすべからくヴァルネラブルであれ！というのである。

パワフルのなかにヴァルネラブルを併せ持つのだから、これは並大抵のことではない。それ相当の覚悟が要ることは言うまでもない。さらに、パワフルにしてヴァルネラブルであるためには自らの死から目を背けてはならない。つまりメントモリ(死を想え)が要求されるのである。これもスピリチュアルではないか。

これからの医療は格闘技。医療者の備うべき資質はパワフル、ヴァルネラブル、

メントモリを束ねたスピリチュアリティということになる。

このことに気づいている医療者がどのくらいいるのだろうか。特に医師に関してはお寒いかぎりと言わざるを得ない。だから「水輪養生塾」の車座交流会において、あのような発言が飛び交うようになるのである。

医師と患者の信頼関係に齟齬をきたすことになればプラシーボ効果など生まれて来ようがない、プラシーボ効果こそ医療の基本であることを考えれば、このことは医療を根底から覆す大問題なのである。

産科医の不足、小児科医の不足、救急患者のたらい廻しなどの対策よりも、もっと早急に考え、手をつけなければならない問題に思えるのだがどうだろうか。

最後が養生の問題である。養生とは生命を正しく養うこと、いつの時代にあっても重大なテーマである。鑑みるに、これまでの養生は身体を労わって病を未然に防ぎ天寿を全うするといった、どちらかといえば消極的で守りの養生であった。その上に死をもって終わりでは、じつにつまらない。

しかし、医学や医療のように、その焦点を身体から生命場に移せば養生も変わって来る。内なる生命場のエネルギーを日々高めつづけていくという積極的で攻めの養生になる。しかも死をもって終われりではなく、死ぬ日に最高位に達した生命場のエネルギーは、そのまま死を超えて死後の世界へ突入して行くことになるのである。なんとスピリチュアルな話ではないか。

このように、医学はエネルギー医学へ、医療は格闘技、つまり本来のホリスティックなものに、そして養生は攻めの養生にと転回する時代を迎えようとしているのである。スピリチュアルキウアもスピリチュアルケアもこの時代の流れにあるのは言うまでもない。さらに格闘技といい攻めの養生といっても大いなる虚空の場の中の営みにはちがいない。ということは自力と他力の統合こそ、これからの医学、医療、そして養生の要諦ということになるのではないだろうか。

傾聴 良きスピリチュアルケア・ワーカーであるために

ワルデマール・キッペス

「わたし(たち)は患者さんのことをただ聞く/聴くだけの役割をもっています」と言ったあるホスピスボランティアの発言がわたしの記憶に残っている。この発言には「自分たちは大したことをしていないのではないか」という眩きとそれに対するわたしからのアドバイスが欲しいという願望が含まれていると感じられた。傾聴はベッドサイドだけでの行為として単純に“ただ聞く/聴くだけのこと”ではなく、語り手(患者)と聴き手とが深いレベルで結び付けられるカギである。聴き手の全人的な応答は語り手との関係を形成する上で不可欠なものである。この点に関して、最近あったいくつかの出会いを例として取り上げて以下考えてみたいと思う。

1月のこと。急死した知り合いの方の通夜が始まる前、その奥さんと挨拶を交わした。わたしは「びっくりした」としか言えなかった。その奥さんの「わたしもびっくり」という返答で会話は終わったのだが、本物の出会いになったような気がした。そのとき「お悔やみ申しあげます」のような決まり文句を言ったのでは、ショック状態にあった奥さんとの心の関わりは成り立たなかったのではないだろうか。

2月、25歳下の後輩との出会い。彼は10年前からパーキンソン病になり、自分の得意の音楽もできずに“生きている”。「また一つ身体の機能がなくなったけれども、3ヶ月も経つとそれに慣れてくる。神は素晴らしい身体を作られた」と彼は次々に分かち合ってくれた。「自動車のマフラーはガタガタと音を立てて初めてこういう部分もあったということに気が付くようなものだ」とわたしは応えて、相手との理解が深まったと思う。

同じく2月、旅立つ数日前のAさんをはじめホスピスに訪問した時のこと。わたしは十数年前Aさんの話を一回だけ聴き、Aさんの物事をみる観点に感銘を受けたことがあるが、今まで直接面談したことはなかった。訪室してベッドサイドに座らせてもらい、自己紹介した。痩せているAさんはわたしに顔を向け、「愛宮(み^{えのみや}たい)」と言われた。わたしは最初、その意味が分からなかったが、しばらくしてむかしAさんの先生だった方の名前だと分かった。

そのときAさんの二人の姉妹は病室にいたが、いつの間にかAさんとわたしの二人だけになった。Aさんが「今、何時ですか」と聞かれたので「7(19)時です」と返事をすると、Aさんは「昼ご飯かと思った」と言われた。そこでわたしは「ただそばに座っていていいですか」と聞くと「はい」と答えた。わたしは目でAさんを見守ったが、それはAさんに緊張感を与えるのではないかと心配した。

Aさんがわたしに「お年は？」と聞くので、「78」と応えた瞬間、わたしより10数年下のAさんのがっかりした反応が顔に出た。「運(神)は平等ではない」と言うかのように。

しばらくしてからAさんは何かを探るように手を動かしたので、「何ですか」と聞くと「ナースコール」と教えてくれた。ナースコールは見当たらず、わたしはナースステーションに行って看護師を呼んだ。いつの間にか二人の看護師とAさんの姉妹は病室に来て、4人でAさんの願いに何とか対応しようとしたがわからなかった。4人とも「わからない」と眩きながら病室を探し回っていた。そのうち彼女たちは少しずつAさんの願いが分かって、Aさんの

目の前の棚から毛布などを取り除けて、安楽椅子に置いてあったわたしの帽子とジャンパーをその棚に置いた。その安楽椅子にわたしを座らせなさいということだった。わたしがスツールに座っていたからである。わたしは笑いながら「王様の椅子みたい。こういうのに座るのは慣れていない」といいながら座った(ちなみに、わたしは安楽椅子が好きでない)。わたしはAさんの心遣いに驚きながら感謝とAさんの評価を続けた。「本物のお方です。話し方が儀式的でなく日本的な発想や考え方をしてくださるお方」のように。

間をおいてから「歌っていいですか」と尋ねると、「はい」と頷いた。わたしがグレゴリアンや amazing grace をゆっくりと歌い終わってしばらくして、Aさんの表情は明るくなり、起きあがりながら拍手された。そのような反応はわたしにとって初めての体験であった。それからAさんに「支えや力になっていることは」と聞くと、「sister(姉妹)」と応えた。その後、さらに「祝福してください」とAさんに願うと、彼はつらそうに厳しい表情を見せながら何かをつぶやいただけだった。それで「また来ていいですか」と聞くと、Aさんは頷かれた。40分あまりの出会いであった。その翌日再び訪問したが、Aさんは苦しそうだったので、ことばを交わせなかった。15分~20分ほどしてから退室し、隣の「祈りの間」でAさんのために祈りながら時間を過ごした。

3月のこと。「わたしはBさんとどう話したらいいかわからない」と嘆く知人に助けを求められBさんに会った。Bさんは障害をもつ一人の娘さんと暮し、その状況は少しも変わる見通しがないことから二人とも死にたいと思ったこともあったという。初めて会うBさんから「(血液)何型ですか」と一般的な質問を受け、わたしはそれには答えなかった。Bさんのことに重点を置きたいからであった。そこでBさん

の歩んできた人生の回想と評価を始めた。自分の思うとおりにならなかった結婚のこと、十年間経てば状況が変わるだろうという期待が外れて、10年以上経っても毎日娘さんの世話で縛られている人生を何十年も生きてきたこと、娘さんを日々大切にしておられることなど。Bさんは涙を流しながら黙って聞いていた。誰も真似の出来ない仕事(娘さんの世話)のことや独学の生活について自己評価したり、してもらったりしたことがなかったのではないだろうか。

実際に生きる状況はこうした評価によって変わるわけではない。だが違った目で見直してみることは、生き続けるために必要な内面的な力を湧き出させる起因にはなりうるのではないか。

傾聴は単にただ聞く/聴くだけではなく、病んでおられる方の状況を含めて聞かせてもらい、聴き取ったことに対する応答によって相手を活かす行為である。その準備としてボランティア・ケアギバーは、意識的に内面性を育成し続ける日々の暮らし方がカギになる。自分自身の中に何かの希望やニーズ、欲求や動きがあるだろうか? 日常何気なく使っていることばにどんな意味が本当はあるのだろうか? 自分へのそのような問いかけに敏感になることである。傾聴は重労働であり、生きることであるからである。

言い換えれば、

- ・傾聴は相手をまるごと把握しようとする努力
- ・相手に本人の知らない部分を意識させること
- ・相手から受けた気づき、感じや印象をフィードバックすること
- ・真心で相手をできるだけ正確に評価して活かせること
- ・きれいごとではなく相手のマイナス思考、悩みや苦痛などをプラスに変換できるように工夫することである。

臨床パストラル・カウンセラー 野田千恵子

非常勤パストラルカウンセラーとしてある公立急性期総合病院で勤務を始めて7ヶ月が過ぎました。当院はある地域の中核病院として機能しています。27 診療科と7 専門外来を持ち、482 床あります。看護部に所属し、上司の看護部長からは患者と家族、医療スタッフの「心のケア」に当たることを求められています。当院におけるパストラルケア職は初めてで、この規模で一人職という問題を抱えて試行錯誤で始めています。これまでの体験の一端をシェアさせていただきます。

勤務時間は朝9時半から午後4時15分まで（休憩45分間）の6時間で、必要に応じて延長が認められています。オリエンテーションでは、看護科長より全ての病棟・外来看護師長と勤務中の医師に紹介され、院内向け広報誌にパストラルカウンセラー職として自己紹介し、掲示板に告知していただくなど看護部スタッフの理解と支援を受けており、パストラルケア中に医師や他職の方々が入室される場合も、そのまま続けるようにと理解を示していただくことが多くなりつつあります。

病棟では終末期医療への取り組みがなされており、緩和ケアや集中ケアなどの認定看護師との協働も行います。日々手術患者の入退院や看取りが繰り返される中で、スタッフのストレス度は高く、患者と家族の心のケアに対するニーズも非常に強く感じられます。

医療・看護スタッフからの要望内容は様々で、病気が受け止めきれず、スタッフへ怒りをぶつける患者への訪問依頼やケア・カンファレンス、看取りを振り返るデ

ス・カンファレンス、スタッフのグリーフ・カンファレンスなどへの出席、手術を控えた患者の不安な気持ちへの寄り添いと傾聴、忙しく慌しい医療事情そのものへの疑問と不満をぶつける患者の声の傾聴、救急外来担当医師からは患者と家族への対応の依頼などが寄せられています。看護カルテにパストラルカウンセラーの訪問事実のみを記録します。依頼票は各看護師長がパストラルカウンセラー用のポストに入れてくれます。開始当初は依頼が少なく、各病棟と外来をラウンドし、ヒヤリングに努めましたが、現在では、院内での周知がかなり行き渡り、依頼が多くなっています。依頼票には返事を書くことになっていて、プライバシーを尊重してチームでシェアできる部分を共有していくように努めています。病棟数が多く、入退院が頻繁なので、同一患者への訪問は多い場合で5~6回程度で、それ以後は出来るだけ外来通院や再入院の場合につなげられるよう、他職種との連携を大切にしています。当院は地域の教育研修医療機関でもあり、先日「医療に求められる心のケア」について市内の看護師20余名の方々にスピリチュアルケアについてお話しをする機会が与えられました。質問やアンケートの内容に参加者の関心の高さが伺えました。

非常勤のパストラルケア職として、日々多くの課題を与えられ、常に自分が問われていることを痛切に感じています。週に6時間程度、大規模病院でスピリチュアルケアを行うことの意味は何か、自分にその資格があるのか等々。今置かれている場所で出会う一人一人を大切にしていって向き合い、そ

の方々の内にある力や喜びや問いや嘆きや叫びや怒りを表出していただき、その過程をご本人が意識できるよう寄り添い、自分の深い部分と自分を超越る存在に向かって生きていけるように、或いはその人が大切に生きてきたことと向き合い、その方の人生を回想する傍らに居る小さな存在

でありたいと思います。医療・看護職とチームを組むことで、双方の視点を学びあい、理解を深め合えることを体験させていただくことを有難く思い、出会う人々に感謝しながら働かせていただきたいと思います。

実践の現場から②

臨床スピリチュアルケアワーカーを派遣しています

NPO スピリチュアルケア東京 代表 小林 和子

長く厳しい研修を乗り越えて認定を受けられた皆様、その後どのような活動をしていらっしゃるでしょうか？

NPO スピリチュアルケア東京では、パストラル・ワーカー及びパストラルケア・ボランティアの資格を持つ方に、臨床スピリチュアルケアワーカー派遣会員として登録していただき、スピリチュアルニーズを持つ人、特に完治の見込みのないがん患者や慢性疾患の人などとその家族、そして年老いた人の住まいや施設を訪れてケアすることを目的とする派遣事業をしています。

また臨床スピリチュアルケアが、病む人に必要かつ重要なケアであるということ、を社会一般から認知され、必要な人が必要な時にケアを受けられる社会の実現を目指しています。

臨床スピリチュアルケアワーカーが全人的ケアの一端を担い、自立した専門職として社会に認められるためには、有料であることが必要との考えから、利用者にケア料金 2,000 円 / 1 時間と交通費を支払っていただきます。しかし「話を聴いてもらうだけで費用が掛かる」ことに抵抗があるとか、介護保険など公的な援助がないことが

ネックになって、利用者が増えていかないというのが実情です。

ところが昨年暮れ、ファイザー株式会社の『ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援』によって、私たちのプロジェクト「病む人、年老いた人の実存的心の叫びに寄り添うための派遣事業」が選ばれ、助成金をいただけることになりました。評価の内容は「助成金によって利用者の負担が減り、より利用しやすくなることで、利用頻度が高まるとともに、一般への認知度も高まることが期待される。また、こうした営みが一般に認知されることで、高齢化が急速に進む我国において、実存的な悩みに対する組織的な援助を今後どのように構築していくのかを考える上で、参考とすべき貴重な実践になると考えられる」というものでした。市民活動として社会に開かれたことは、前進のための貴重な一歩だと思います。

今年 1 年間、実施計画に沿って派遣事業をおこなっていきますが、今後スピリチュアルケアを多くの方に利用していただくためにどう働きかけるのが有効なのか、それが私たちの課題です。講演会・地域の集

まりや教会で説明する、知人・友人に働きかけるなどの広報活動の甲斐あって、スピリチュアルケアに関心を持ってくださる方、賛助会員になってくださる方がずいぶん増えてきました。

また、私たちは、東京武蔵野市を拠点とする東京老人ホーム、NPO 緩和ケアサポートグループ、在宅ホスピスの武蔵野ホームケアクリニック、薬局のルンルンファーマシーとともに、コミュニティをはぐくむ『希望の会』を昨年立ち上げ、一般市民を対象に講演会と研修会を開催しています。6月13日にはキッペス先生を講師に、「スピリチュアルケアって何？ スピリチュアルな痛みの理解とケア」と題して研修会を予定しています。場所は吉祥寺の商工会議所、時間は2時からです。

さらに、在宅ホスピスの医師から、スピリチュアルケアを必要としていると思われる患者さんを紹介していただくシステムも作りました。実際に始めてみると、予想外の事態が起こるなど、なかなか考えているようにはスムーズに運びません。患者さんの心の叫びと、一所懸命に世話をしている家族の方の考え方に違いがある場合や、家庭に見ず知らずの人が訪れる煩わしさなど、在宅でのスピリチュアルケアが抱える問題なのかもしれません。

私たちは助成金を受けたことを励みとして試行錯誤しながら、スピリチュアルケアが社会に必要とされ、浸透することを目指して活動をしていきます。どうぞご支援ください。

学び

スピリチュアルケアの勉強室

パストラル

ウォルデマール・キッペス

《パストラル PASTORAL》の語源はラテン語の《パストル PASTOR = 羊飼い・牧者》。その形容詞は《羊飼的(在り方・様子) PASTORALIS》。その動詞は《家畜を放牧する・家畜が牧草を食う、家畜に餌を食べさせる PASCARE》である。

《パスター PASTOR》は、キリスト教では信者の共同体の責任者の役職名になり、牧者・牧師・神父あるいは司教のことを意味し、現在もその意味で使われている。キリスト教の責任者を《牧師 PASTOR》と名付ける理由は、イエス・キリストが自分の使命を次の言葉で表現している。即ち、「私は良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」(ヨハネによる福音書10章11節)。イエス・キリストは自分の後継者・代理者の使命も羊飼いであり、必要に応じて羊のために命を与えるべきであることを強調した。

西洋では、《パストラルケア》が医療活動の核として存在していたことを忘れてはならない。1990年にWHO専門委員会報告書にまとめられた「パリアティブ・ケア」によって広まった《スピリチュアルケア》は、西洋の伝統的パストラルケアの内容をホスピスのありかたとして強調するものである。《パストラルケア》の本質は《スピリチュアルケア》である。

パストラルケア部の従事者は伝統的には主に宗教家であるが、現在は宗教の有無に関係なく、患者の心と魂のニーズに対応しようとしている。ちなみに、パストラルケアはドイツ語で《魂の配慮 SEELSORGE》といい、医療施設には《魂の配慮部》がある。当センターが《パストラル》を用語として遣う理由は、英語圏の医療界では「心と魂のケア」は《パストラルケア》と呼ばれることが多いし、医療施設でスピリチュアルケアを実践する部門は《パストラルケア部》と称されることが多いためである。

スピリチュアルケアの的確な援助者の教室 第12回

会話記録(G:ゲスト、H:ホスト)

訪問記録の実例

G1 : やあ、この前の人でしょ。(病室に戻る途中のK氏が、車イスを止めて、声をかけてくださる)。どうも・・・。

H1 : あっ、Kさん。こんにちは。一昨日、お会いしたNです。

G2 : 今日、すごいことがあったんだよ。実はね、『贈り物は、わたしなのです』っていう言葉を知ったんだ。キリスト教の偉い人が書いた言葉らしいんだ(興奮気味に話される)。

H2 : 『贈り物は、わたしなのです』っていう言葉なんですね。

G3 : そうなんですよ。あのね、さっき会った人にも話したんだけど・・・。Nさんに似た勉強をしている人だったよ。その人にも今の言葉を話したんだ。

H3 : その方にも話されたんですね。その言葉が書かれたものをお持ちなんですか？

G4 : 持っているよ。立ち話も何だから、私の部屋に来ますか？その紙を見せてあげますよ。来る？

H4 : そうですね。ぜひ見せてください。お願いします。

G5 : 行きましょう(車イス自操しながら病室に向う)。

H5 : はい行きましょう(ゆっくり車イスを自操しながら自分のベッドサイドに向うK氏とともに入室)。

G6 : これを見てよ。この紙ですよ。ここに書いてあるでしょ。『贈り物は、わたしなのです』ってね。(紙を左手に取り、Hに見せてくださる)。贈り物は「わたし」自身なんだね。

H6 : Kさんの言われていた言葉って、これのことなんですね。考えさせられる言葉ですね。Kさんは、この言葉を見て、どうお感じになられたんですか？

G7 : 私は最低の人間だと思ったね。思い知らされたよ。

H7 : 最低の人間だと思われたんですね。それはどうしてですか？

G8 : 私はこれまで社会に批判的だったけど、世の中すてたもんじゃないね。世の中にもこういうすごい言葉を言う人がいるんだね。とてもかなわないなって思ったんですよ。キリスト教ってやっぱりすごいね。(紙の言葉の末尾にはキングと記してあった)。

H8 : キリスト教に興味がおありなんですか？

G9 : うん、もっといろいろ知りたいですね。キリスト教も文学と同じように学ぶ点が大いにあるね。何と言ったっけなあ・・・「鼻」って小説だけど、作者の名前は・・・龍之介って言ったかなあ・・・。(沈黙)

H9 : あっ、芥川龍之介ですね。芥川龍之介の「鼻」っていう小説ですね。私も昔、読んだことがありますよ。

G10 : 「鼻」って小説は学ぶところが多いね。人間、正直でなきゃいけないよ。やっぱり正直でいいんだね。(「鼻」は、人間はありのままの自分自身を大切にしなさい、ということを教えてくれる小説である)。



- H10: あっ、そうだ。Kさんは一昨日も「人間は正直じゃないといけない」と言っていましたよね。人間は正直でないといいないですよ。
- G11: そう、正直でないといいないです。この前もはなしたでしょ？この時計を見てよ。これは1000円で買ったんだよね。でも、1年間も動いていたんだ。この時計は、さっき来た人にも見せたんだよ。その人の時計は5000円なんだって。私の時計の方が安いけど、1000円なのに、ちゃんと使えたんですよ。人間も物も見かけによらないね。この前、話したでしょ？植木屋の話。そのことも同じだよ。
- H11: 植木屋さんをされていたお話ですよ。小児麻痺の方のお話でしたよね。努力して資格をとられて、植木屋さんになられたんですよ。
- G12: そう、そう。奴のこと……。
- H12: 時計のお話も植木屋さんのお話も、Kさん自身も共通していますよね、それに、さっき見せていただいたキリスト教の方の言葉も重なるのではないのでしょうか？
- G13: そうですね。自分は自分でいいんだね。さっきの紙に書いてあったでしょ？『贈り物は、わたしなのです』って。その言葉。でね、今日、すごいことがあったんだよ。
- H13: 今日、すごいことがあったんですよ。どんなことがあったんですか？
- G14: それがね、ちょっと見ててください（車イスから立ち上がろうとする）。
- H14: ご無理なさらないでくださいね。大丈夫ですか？
- G15: 大丈夫。こうね、立ち上がれるようになったんですよ。立っていられるように……リハビリではね、杖をつかなくては立てなかったのに、ほら、立てるようになったんですよ。（杖を使わずに立てる様子を見せてくださる）。
- H15: 立てるようになったんですか。一昨日は難しかったですよね。どうして立てるようになったと思われませんか？
- G16: それがあ言葉なんですよ。キリスト教っていうのは何かあるね。不思議だね。（再び車イスに座られて話される）。あ言葉を知ったら、こう、右足に力がみなぎってきてね。立てるようになったんだよ。何かあるよ。
- H16: そうですね。私も何かあるように感じます。不思議ですね。あ言葉には、私も感動いたしました。希望が湧いてきますよね。
- G17: 希望が湧きますよ。この前も話したでしょ？私は雷に当たって怪我をしても、車にぶつかっても、今回、入院しても、こうやって生きていないですか。希望がありますよ。それに死ぬのが恐くなくなったね。
- H17: 死ぬのが恐くなくなったんですよ。それはなぜだとお感じになりますか？
- G18: 3回生まれ変わったんですよ。まだまだ死ぬなって言われてきたような気がしますよ。3回ですよ。だから、今度、死ぬようなことがあったら、もう、いいやって思うんですよ。だから、死ぬのが恐くなくなったんだよ。
- H18: それで、死ぬのが恐くなくなったんですよ。やっぱり『贈り物は、わたしなのである』っていう言葉に出会ったからでしょうか？
- G19: そうだね。あ言葉はすごいよ。立てるようになったんだからね。
- H19: あ言葉の書かれた紙は、どなたにもらったんですか？
- G20: なんか頭に、こう、かぶった人（動かせる左手でジェスチャーしてくださる）。
- H20: あっ、それはシスターですね。この病院はカトリックのキリスト教の病

院なんですよ。

G21 : カトリックねえ・・・。キリスト教ですか。いろいろ教えていただきたいね。もっといろんな教えがあるんじゃないかと思うんですよ。

H21 : キリスト教について、いろいろお知りになりたいんですね。

G22 : ぜひ、知りたいねえ・・・。Nさん、そのうち誰かに教えてもらいたいねえ・・・。(表情、明るく、目が輝いているように感じられる)

H22 : この病院にいる間に知りたいと思えますか？

G23 : できたら、知りたいねえ・・・Nさん、誰か知っている人いませんか？

H23 : 私の知っている方には、キリスト教の神父さんがいるんですが、ご紹介いたしましょうか？

G24 : お願いします。

H24 : そうですね。私は明後日まで、この病院におります。今日、神父さんに都合を聞いてみますね。神父さんにもご都合がありますので、来れないかもしれませんが明日、お返事いたします。

G25 : ありがとうございます。またお会いしましょう。

H25 : はい。ありがとうございます。

上記訪問記録に対する

スーパーヴァイザー 木澤 寛子先生からのコメント

G1 : 「この前の人でしょ」に対してH1の応答も悪くないが、「憶えてくださったのですね、ありがとうございます」と付け加えるとG中心の会話になり、Gを評価したことにもなる。

G2 : 「今日すごいことがあったんだよ」とすぐ核心に入って、それがGにとって重要なことであることを示している。Gの感動を汲んで、「『贈り物は、わたしなのです』という言葉を知ったことがKさんにとってすごいことだったのですね」と反復したらGの心情に近い。

G3 : に対してH3「その方にも話されたくらい感動されたのですね」と返したほうがG中心になる。

「その言葉を書かれたものをお持ちですか」は確認のために良かった。

G4 : 心を開き、自由な心のさまが伺える。

H4 : 「そうですね」は不要。

G6 : 「贈り物は『わたし』自身なんだね」

の悟りに対する応答をH6ですると良かった。「考えさせられる言葉ですね」というHの考えでなく、「すごい悟りですね。それはKさんにとってどんな意味なのですか」とか「それがどのような支えになりましたか」とか。Gさんから離れないように。「どうお感じになられたんですか」という質問も良かったが、Gさんが『贈り物は、わたしなのです』をどう捉えたかが分かりにくくなり、拡散した。

H8 : でキリスト教に持っていかないで、G7の「思い知らされた」とG8を反復して「すごい言葉から自分自身を思い知らされたということでしょうか」と質問して深めたら良かった。

H10 : 「『鼻』からは正直でなければ、また、正直でいいんだということを感じられたのですね。わたしも同感です」などと反復の後で自分の意見を言い添えると明確になる。

H12 : 『鼻』も 『時計』も 『植木屋さん』も 『人間も物も見かけに拠らない』ことを示しているとお思いになるのですね。それは 『贈り物はわたし』という言葉と重なっているのでしょうか」と G の言葉を使って具体的に示すとよりインパクトが強く明確になりやすい。

G13 : 『贈り物は私なのです』という言葉を通して 「自分は自分でよい」と悟ったのだと G 自身が明確に表現されたのは良かった。

H15 : はなくても良い。

G16 : K さんの 『不思議だね』 『何かあるよ』 『あの言葉を知ったら右足に力がみなぎってきてね、立てるようになった』という圧倒的な言葉の力の確信。簡潔で力強いスピリチュアルな体験は感動的。

H16 : H の考えではなく G の体験の表現に対する応答が良いのではないか。例え

ば 「あの言葉を知ること、悟らせてもらうことによって力がみなぎって、立てるようになったのですね。本当に不思議なことが K さんに起こったのですね」とか。「希望が湧いてきますよね」は誘導にならない様に、G の言葉を待ったほうが良い。

G17 : 「希望がありますよ」を 2 回繰り返して 『死ぬのが恐くなくなった』に対して H17 「希望があるから死ぬのが恐くなくなったのですね」と確認したら、深まったかもしれない。

G19 : 「あの言葉はすごい」に対して H19 で 「すごい力のある言葉をいただきましたね」と応答したらどうだろう。

G22 : 「ぜひ知りたいねえ」に H23 で対応したのは良かったが、この後、継続して対応できる病院のパストラルケアに任せるのも一つの方法である。

講師 國枝 欣一 先生からのコメント

この会話の神学的意味は何だと思えますか？スピリチュアル・ケア（パストラル・ケア）を学んでいる人でも、そのようなことを考えたことがないという人も多いのではないのでしょうか？この方に関して H は（興奮気味に話される）と書いています。それをもっと分析的に検討すると G さんの表情や話し方のスピード、声の高さや、張りなどを、H の視覚や聴覚で受けとった結果起こった H の解釈だろうと思います。G さんは話さざるを得ない、黙って居られないすばらしい体験をしたのです。それは、神学的には聖霊によるバプテスマを受けた、あるいはパウロがダマスコへの途上経験した回心（使徒言行録 9 章、22 章、26 章）と同じことを、ここで G さんは経験しているのです。それがどこから分かるのかというと G 7 , G 1 3 , G 1 6 で

す。それ程大きな体験を G さんはしているのだということを、この会話の中で H ははっきり意識していたかどうか知りたいところですよ。

「贈り物は、わたしなのです。」という言葉、H が勝手に解釈しないで、「この言葉を見て、どう感じられたのですか？」と訊いて、G さんの言葉を待った（H 6）のはとてもよいことです。スピリチュアル・ケアでは、何時も話し手である G さんが主であり聴き手の H は従であることが大切なポイントだからです。G 7 の答えは H にとって意外だったのではないのでしょうか。H 7 で「それは、どうしてですか？」と訊いています。

「きく」には、三種類あります。「聞く」、「聴く」、「訊く」です。通常私達はケアの場面で「聴く」を中心に考えますが、

相手の方が自分の表現していることをよりはっきりさせるお手伝いをさせていただく時に三番目の「きく」を使います。この「訊く」を使う時には自分の興味ではなく、あくまでも相手、ここではGさんが感じていることをより鮮明にすることによって、Gさんが自分の体験していることをより明確に意識化することを主眼としていなければなりません。

Hは、「それはどうしてですか？」(H7)、「どんなことがあったんですか？」(H13)、「どうして立てるようになったと思われませんか？」(H15)、「それはなぜだとお感じになりますか？」(H17)と四回上記の「訊く」を使っています。そのことによって話は深まり、Gさん自身の欲求がはっきりしたといえるでしょう。

ただし、「どうして」「なぜ」という質問は危険でもあります。なぜかという、このような質問の仕方は、時に相手方が聴き

手から挑戦を受けているように感ずる場合があります。それを避けるためには、「何がそう思わせるのか」、「何がそう感じさせるのか」というように「なにが」を主語にして訊いてみると聴き手に抵抗感を感じさせないで、同じ結果を得ることができます。

気になる点は、Hの感情は動いているのかがどうか伝わって来ないという事です。Gと空間的には一緒にいるにもかかわらず、何か観察者のような冷静な、悪く言えば冷たい目を感じ、「共に居る」という感じがしません。H自身の感情や意図、欲求、願望などはどのように動いていたのでしょうか。聴き手自身の心の動きを聴き手自身が把握していることが肝要です。ここではGさんの体験が強烈で、それを誰かに聞いて欲しいということがGさんにあったために、結果としてHが救われていたという感じがします。

新 会 員 名 簿

敬称略

B MEMBER

| | | | | |
|--------|-------|--------|-------|--------|
| 太田 ルエ | 徳島 聡子 | 芹田 真理子 | 宇山 順子 | 久下沼 晃子 |
| 伊藤 実希子 | 伊藤 典子 | 飯田 美穂子 | 荻原 敏子 | |

B MEMBER+ CONTRIBUTION ()内単位：千円

| | | | | |
|------------------|------------|---------------|-----------|------------|
| 萬里小路 公子(3) | 田中 亮子(3) | 行徳 清美(3) | 久保 芙茂子(3) | 木村 秀幸(3) |
| ハヌス・ハンス(13) | 渡邊 津江(1) | 聖ドミニコ修道女会(30) | | 三橋 理江子(1) |
| ホッフル・グェンドリン(5) | | 井原 彰一(1) | 久下沼 晃子(1) | 仙台ブロック(16) |
| 鹿児島一日研修会参加者(2.5) | 有志 (33.4) | | 福田美樹(4) | 仙台ブロック(8) |
| ソケイ (30) | 聖母研修生(4.5) | | 守山順子(0.5) | 副島 勲(5) |
| ワークリーダー研修生(7.6) | 関西ブロック(1) | | | |

ありがとうございました！

2009年4月13日現在

特定非営利活動法人 臨床パストラル教育研究センターのホームページは

臨床パストラル教育研究センター

検索

「アミターバ 無量光明」を読んで

露木 久美子

「死んだらどうなるのだろう」

このような疑問を持ったことのある人は、少なくないのではないだろうか。そしてその疑問は、時に恐怖や言いようもない悲しみを私たちのなかに引き起こす。そんなときは何か救いにも似た答えが欲しくはないだろうか。「アミターバ 無量光明」は、仏教の僧侶によって、小説という媒体を通じて示された、一つの答えである。

スピリチュアルケアは必ずしも特定の宗教を必要としないし、ケアワーカーは必ずしも宗教者ではない。したがって、ケアワーカーが「死んだらどうなるの」と患者さんから問われた場合、ある宗教に基づいた答えを与えるよりも、相手の気持ちや考えていることを引き出すような答えをするほうが良いのだろう。しかし、神父や僧侶などの宗教者に対して患者さんが同様の問いをした場合は、違う。患者さんは敢えて宗教者に問うているのだから、彼らは、何らかの宗教的な答えを期待していると考えて良いだろうと思う。その問いに著者が、宗教者として且つ小説家として答えたのが、「アミターバ 無量光明」である。

「アミターバ」の著者である玄侑宗久氏は臨済宗の僧侶である。実際に著者の義母が亡くなるときに、義母から「死んだらどうなる」と問われ、その質問に対して僧侶として十分に答えられなかった、という体験が基になってこの物語は生まれたと著者は別のエッセイで記している。

物語は、死を目前に控えた著者の義母の視点で綴られている。主人公である義母の、

いわゆる臨死体験が著者の想像の下で描き出されているのだが、この義母の視点が時空を超えて、自分の会いたいと思った人に会い、行きたいと思った場所へ行く。それが、死を迎えた後もなおしばらく続く。そして、自らの葬儀で住職に「東西南北、汝の去るに任す」と引導を渡されると、「行く先は私の自由ではないのだと自覚していた。しかしそれは少しも不自由ではなく、むしろ懐かしい気分なのだった」と、強い光の中心へ進んでゆくのである。

「アミターバ」とは、「光」のこのことである。作中で著者は「信じるとか、疑うって何をです？」と義母に問われ、「アミターバ。つまり無量の光。あるいはアミターユス。阿弥陀さんですよ。いいですかお母さん、極楽浄土ってのは、なにか私らには計り知れない存在の意志や思いが実現してる場所らしいんですよ。それを疑わないことです」と答える。

臨済宗の僧侶が書いた小説であるからベースにあるのは仏教的な思想ではあるが、何か大いなる存在を信じるという点では、すべての宗教に通じるものがある。「計り知れない存在の意志や思い」を信じるのが私たちにとっても時に大きな救いになるだろうし、そのような態度をスピリチュアリティと呼ぶのではないだろうか。この物語は、スピリチュアルケアに直接役に立つものではないかもしれないが、スピリチュアリティを涵養する題材として、十分に読む価値のある物語だと思う。

(玄侑宗久著「アミターバ 無量光明」新潮社)

がん予防のための生活習慣

慶應義塾大学看護医療学部

加藤 眞三

世界がん研究基金は 1997 年に「がんを予防するための提言」を出し、全世界に大きな影響をあたえましたが、2007 年に 10 年ぶりの改訂がされました。最近の新しい研究成果を詳細に吟味しそれを採用した提言であり、科学的な証拠に裏付けられた信頼性の高いものです。

提言には、次の 10 (+1) 項目があげられています。

1. 体重は標準体重内であるべく少なく維持すること。
 2. 毎日 30 分以上の運動をしっかりとすること。
 3. 糖分の多い飲料を避け、加工食品で、砂糖が多く、食物繊維が少なく、脂肪が多いエネルギー密度の高い食物を制限すること。
 4. 多種類の野菜・果物・精製度の低い穀物、豆類をとること。
 5. 牛肉、豚肉、ラムなど赤い肉類の摂取を制限し、ハムやソーセージなどの加工肉は避けること。
 6. もし飲酒するとしても、男性ではエタノールとして一日平均 20-30g (日本酒 1 合相当)、女性では 10-15g 以内にすること。
 7. 塩分の多い食品や塩で加工された食品を制限すること。
 8. がん予防のためにと、サプリメント類(ビタミン剤など)をとらないこと。
 9. 子供は母乳で育てること。
 10. がん治療後に生存している人も、上記の提言が奨められる。
- 番外 当然、タバコはすわないこと。

これに照らし合わせてみなさんの生活習慣はどうでしょうか。文明社会になればなる程、このような生活から遠ざかってしまいがちです。

がん細胞の特徴は、自律性増殖、浸潤と転移、悪液質の 3 つが挙げられます。

身体の全ての細胞はどれも同じ遺伝子をもっているのに、正常な細胞では自分の与えられた部位や環境でその役割を果たしおとなしくしています。それに対して、がん細胞は自分勝手に活動や増殖をして周囲との調和を乱すのです。

がん細胞は、周囲にしみ出すように拡がり、身体のあちこちに飛び火します。

活動が活発ながん細胞は、他の正常細胞が必要とする栄養を横取りし、さらに悪い物質をだして、体全体を衰弱させてしまうのです。

どうでしょう。こうしてみると、文明社会に生きる人類とは、地球にとってがん細胞のような存在だとは思いませんか？

永遠の旅に出られた「川村 緑さん」と「荻野 洋一先生」にささぐ

益尾 悦子

川村 緑さん (3月12日に旅立たれた)

あなたは1997年6月、未だ臨床パストラルケア教育研修センターの発足以前、聖テレジア病院で研修会に参加されましたね。川村さんは静かであり多くは語らない方のように思いました。そして3年後にはBコースの資格認定を受けられ、あちらこちらで実際にケアに携わっておられたようでした。研修に先立ってカウンセリングの学びをなさっておられ、その後もいくつかのグループのカウンセリングの学びをなさった勉強家であり努力家でいらっしやいましたね。

5年ほど前しばらくぶりで聖テレジア会本部でのスーパーヴィジョンに参加なさって、川村さんが認定を受けられたところに比べ、研修グループ全体のレベルが上がったことに感嘆の声を揚げられましたね。その後認定更新をなさったことを私はよく覚えております。

その頃でしたか、大船駅のホームでお会いしたときの川村さんの明るい笑顔、そしてほんのひと言二言の立ち話が私の心に懐かしくよみがえってまいります。その時私の心に安心とよろこびを頂き感謝しました。それが川村さんとの最後の出会いだったのでしょうか？

昨年(2008年)病いを得られてご療養と伺いお尋ねしたいと思った願いはもうかなわなかったのです。お葬儀に与らせて頂いてテハン師から手厚いケアを受けつつ旅立ちの準備ができて良かったです。師のホミリア(説教)によれば、いつも教会の内外でよく働かれたこと、身体が弱るにつれ魂が高められたことを伺い、ご立派だったと思いました。ご長男は告別式のと

き、ご挨拶で「母は自分のことより私たちが、周りの方々のことを思いやっていました。」そして一瞬、声をつまらせ「本当にすばらしい母でした。」と仰いました。

川村緑さんは最後までパストラルケアの使命を果たされたのですね。おめでとうございます。また会う日まで・・・。

荻野 洋一 先生 (3月4日に旅立たれた)

イースターカードにお見舞いの言葉を添えて差し上げたお返事に奥様からのお手紙が届き、先生はペースメーカーの移植後2月28日に退院され3日間をご自宅で普通に過ごされ4日目の朝早く静かに飛ぶように旅立たれたというお手紙を拝見して、びっくりしてしまいました。

なんという荻野先生らしい出立でしょうか。

先生とのお出会いは10年前、聖テレジア病院に肺炎でご入院なさったとき、病棟師長さんから聖マリアンナの名誉教授でいらっしゃる荻野先生がシスターにお祈りに来て欲しいといわれているのでいらしてくださいと聖テレジア会事務局に伝言があったと言う事で、早速伺ったことから始まりました。

ご回復なさってお帰りの折、感謝のためにシスターにお祈りをさせていただきたいと仰り病院の小聖堂で、ご自身が聖書を朗読なさりお祈りくださいました。

その後センターのニューズレターを差し上げたことがきっかけで先生はキッペス先生との出会いをととても感謝されセンターのためにもその後は沢山ご協力してくださりほんとうに有難うございました。このスピリチュアルケア誌41号にも寄稿して下さいました。(このころ先生は大変お辛い時期を過ごしていらしたと拝察しました。ご遺稿となったのですね。)

50余年間を先天異常の方々の医療、手術、治療そしてその後の丁寧なフォロー、とりわけ心のケアにいつも心を砕かれていらっしゃいました。

季節ごとに頂く先生からのお手紙はご自分の関わられた患者さんへの思いと愛で満ちていました。そしてどのお手紙にも、「神様から与えられたタレントを少しでも生かしていきたい」と書かれていました。

奥様のお話では、ご自分は知らないうちに、先生に診ていただいた沢山の方たちが自然に遠くから、沖縄からも集まれて、お別れの会だけはしましたの、と仰り、先生がどれほどよいケアをなさったのかと感動しました。

荻野先生は信仰の篤いキリスト者でいらして教会員として誠実に勤められ、小さいお孫さんが、お祖父様と同じ信仰を頂きたいといわれたことを非常にお喜びだったことも記

憶しております。そして、3年前に出された著書「病める方と同じ目の高さで」にお書きくださったように医師としてどれほどご自身に対して厳しく律せられたのでしょうか。

先生には聖書の次の言葉が一番ふさわしいように思いました。

「わたしは戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました・・・」 テモテ4:6~7

信念のお方、荻野先生、天国で安らかにお休みくださいとは申し上げたくなく、これからも、先生の残されたご家族のみなさま、関わられた多くの患者さんとそのご家族を見守り、臨床パストラル教育研究センター、とりわけ、日本の医療の現場にスピリチュアルケアが大切だと理解されますよう天国でも祈りお働きください。

3日・5日間 研修会感想

聖母病院

2009年2月23日~27日

科目 : 心理的、哲学的、神学的/宗教的人格の統合

今回が私にとって最後の研修でした。私 は2回目の人生の分かち合いをしました。今回人生の分かち合いしたのは7名でした。私の人生を分かち合っていたかと共に、他の方達の人生を味あわせていただきました。どれもこれも私にとって深く考えさせられるものでした。皆様に感謝しております。また今回私は私という存在について深く思いめぐらしました。キッペス先生の適切な助言により、私一人であつたらなら、見る勇気の持てなかつた自分(自分では世界中の人から嫌悪されて当然のこの上もな



く醜い自分とと思っていたのが、ただの弱虫の自分だった)を見つけました。私は傷ついて、ゆがみを持った、円満とはほど遠い人格の持ち主でした。「だから何をしてもダメ、私のすることはすべてが悪」でも「円満な人格になるよう努力する」のでも無く、そのような人間でも「そのまま神に向かって歩いて行く」それが最後にわたしの心に残りました。キッペス先生始め私達の研修のため、いろいろ努力してくださいました方々に、本当にありがとうございました。

(Y.M.さん)

東京 ニコラバレ

2009年3月11日～15日

科目：人間関係とコミュニケーション、傾聴

5日間の研修を終えて私が一番始めにした事は「産んでくれてありがとう」と母にお礼を伝えた事です。

研修には「学び」「気付き」「出会い」多くのものがありました。それらを受け取って何とも言えぬ喜びと充実感の中、命に対する感謝の念が私の中でふくらみ、その思いをどうしても「今」伝えたい！そう思ったからです。突然の告白でしたが、母は「あなたの気持ちよく伝わりましたよ、とっても嬉しいです」そう返してくれました。言葉を受けてまた喜びが増し、研修を通して私が得たものを分かち合えた気がしました。命に感謝する事で自分という存在を価値のあるものとして認



識し、同時に周りの命（存在）に対しても尊敬の気持ちが強くなりました。又、今まで自分がいかに多くの事を分かったつもり、できているつもりでいたのかと言う事も思い知らされました。

明確になった自分の問題とは、これからじっくりと向き合い改善し、皆さんから頂いた温かい評価の言葉には素直に喜び大切にし、これからの様々な関係の中で生かしたいと思います。本当の言葉を聞き、本当の姿を見て、本当の心を理解するために努力する事は私にとって大きな喜びです。私自身もありのままの素直な存在で周りの人との関係を築いていきたいです。（I.M.さん）

札幌

2009年3月20日～24日

科目：人間関係とコミュニケーション、傾聴

初めて参加させていただいた研修会でもありましたので、緊張度の高いものでした。ロールプレイやワーク、そして宿題は実りのある体験ではあると思いましたが、正直申しますと「もうかんべんして！」と心の中で叫んでいるようでした。それでも研修生の皆さんが互いに真摯にかかわりあう中から（それだからこそ）私は私自身をしっかり見据えることのできる機会をいただいたと思います。

研修会に参加する以前の私、今現在の私でもあるのですが、見る事（知ること）ができたように思えたのです。これからの歩みのステップになると信じます。

人と人が寄り添って生き合うための一



歩に。

静かな一時と御ミサでの祈りは、私に力（パワー）を下さったと感じております。研修生の皆さんおひとりおひとりが温かく受け入れて下さったことは確かなのですが、この空間がありましたので、もしかしたらこの5日間を続けて参加することができたのかもしれない。達成感のあるこちよい疲れを感じています。

さて、これからどのように応答していったらいいのか、力をいただいて生かされていきたいと思います。と心に決めてみました。（M.Y.さん）

オリエンテーション参加者の感想

2009年3月8日於：鹿児島ザビエル教会

- 現在の職業の中で自分のぶち当たっている問題や思いをどこかに導いていただけのではないかと思い受講しました。自分がカウンセリングを受けているような、とても心穏やかな気分になり、思いの確認ができました。(傾聴訓練の)ワークは難しかったです、楽しく、久しぶりに違う頭脳を使ったようです。他の参加者とは、志が近いということで、安心感があり、充実した時間をもつこととなりました。まだ不安(今後学ぶこと)はありますが、少しずつ進めたらと思います。(50代女性)
- 人間関係は手段であり、生きることが中

心であるという言葉が印象的でした。看護師は、受けてきた教育から、効果、解決を期待してしまう事が多く、患者さんと共に生きる大切さを見失いつつあると感じます。

看護師が患者さんを弱くしているのではないかと疑問をもつこともあります。看ている患者さんに本当に必要なことは何かをスタッフと共に考え、不必要な薬や注射を減らし、生きる希望が持てるようなケアを提供することができればと考えます。「自分は何によって生かされているのか」を考え、生きていこうと思います。(N.H.さん)

ONE DAY

一日研修会 感想

鹿児島

2009年3月7日

スピリチュアルとはどういうことなのか、それが人にとってどう影響しているのかを学ぶことができた。

人は今、こうして生きていられることが当たり前と思っており、それが障害されて初めて当たり前でなかったことに気づかされます。病気になり、病んでいらっしゃる方もですが、今健康である人にもスピリチュアルケアを行い、理解してもらえばいいのになあ、と思いました。

「スピリチュアル」という言葉はまだ日常ではなかなか耳にしなかったり、関わるのが少ないものとして感じられるけれど、実は人にとって、一番

重要で、根本的なことであると思いました。(20代女性)

患者さんを訪問したとき、答えをもとめていた私自身がまちが이었다こと、共通



のその時間をともに過ごすこと等、自我の出ている私に気付かせて下さいました。言葉の大切さも...本当にそう思いました。私のライフワークとしても、生きていく目標の為にもスピリチュアルということをもっと学びたいと思います。そしてよい協力者にま

でなれたらな...と思います。(O.H.さん)

心と魂の叫びに答えて5

スピリチュアルケア講演集

臨床パストラル教育研究センター発行

センター全国大会(2005年、2006年、2007年)と臨床スピリチュアルケア研究会(2007年)の全講演を収録。“スピリチュアルケア”学習に最適な書物。



- 主な内容 -
現代日本人のスピリチュアリティ()・()
…東京大学 島園 進
精神医学の倫理とスピリチュアリティ
…上野メンタルクリニック 小俣和一郎
哲学および臨床の観点からの日本人のスピリチュアリティ
…京都ノートルダム女子大学 村田久行
慢性肝臓病患者の臨床とスピリチュアルケア
…慶應義塾大学 加藤眞三
スピリチュアルな痛みとスピリチュアルな健康
…臨床パストラル教育研究センター W. キップス
人生の危機 = 人生のチャンス
…ハノーバー大学 E. シューハート

価格 1,260 円(税込)
A5 判 304 頁
ISBN: 978-4-9903670-1-5 C0010
2008 年 10 月 30 日発行

お買い得です！！

スピリチュアルケアに現場で携わっている方、現在勉強中(研修中)の方、これから勉強しようと考えている方、それぞれに参考になり刺激が与えられる利用価値の高い本です。その上、直販であるがために極めてお得な値段になっています。座右の書に、そしてお友達に推薦する本として、是非とも数冊お買い求めください。2005年とか2006年の全国大会?古いのではない?と思われる方に申し上げます。講演の内容は古いどころか極めて新鮮なものです。スピリチュアルケアに関する考え方は2009年のものが1999年のものより優れているとは必ずしも言えないのは明らかです。

スピリチュアルケアの研修参考書としても、各種の勉強会のテキストとしてもご活用下さい。多数冊(10 - 20 冊以上)お求めの方には割引も考慮しますのでお問い合わせください。

購入申し込み先

〒158-0095 東京都世田谷区瀬田 1-28-1

TEL 03-3700-3425 / FAX 03-3700-3427

特定非営利活動法人 臨床パストラル教育研究センター 本部事務所

本部の動向

教育部会並びに研修会関連：部会長であるキッペス理事長が研修会などで上京する時に不定期に会合を持っている。まず、研修科目 I および II を担当してもらうワーカー養成研修の概要を決定した。既にそれに基づいた研修も開始された。センターが実施する各種研修会では講師や研修生をサポートする会員ボランティア（コーディネーターと称する）が必須である。コーディネーターの仕事の内容やその手順についてははっきり決まったものが従来なかったので、今度その手順書を作成した。本誌に同封したネットワーク誌にも書かれているように、各地域ブロックの会員ボランティアの皆さんに是非積極的にコーディネーターとしてお手伝いいただけたらと願っている。

新しい研修課程の制度が発足してから約一年たつが、旧制度との過渡期でもあり新制度の理解に多少の混乱が見られる様である。そこで教育部会で少し修正（追加・削除）を加えて、新しい研修案内を作ることにし、現在最終の段階に来ている。遅くとも本年5月初旬には「**新研修案内**」が印刷され、必要な方に配布される予定である。

出版部会：スピリチュアルケア誌の編集に当たっては各号の発行の為に平均2回の委員会を加藤編集委員のところ（慶応大信濃町キャンパス）で開催している。やはり一番苦労しているのは読みごたえのある本誌の作成に必須の原稿集めである。ですから、委員の仕事は2回の会議で議論することだけではなく、あちこちに依頼の電話をしたり手紙・メールなどを発信している。昨年出版した「**心と魂の叫び5**」の販売には予想以上に苦戦している。本誌の前頁に全面広告したように、スピリチュアルケアに関心のある方には「必読の書」と言っても過言ではない。読まれた方からの評判もよくて、中には10冊20冊と購入して下さる方もある。センター会員の方々にはぜひ一冊は座右の書としてお買いあげ願いたい。すでに一冊購入させている方はもう一冊お求め下さって、友人などに贈呈されては如何でしょうか。

全国大会：今年の全国大会は札幌での開催で北海道ブロックの方々が本部事務所と密接に連携をとりつつ準備に努力されている。本誌の差し込みとしてチラシや申込書を同封した。ぜひ多くの方が参加されるようお願いしたい。なお、来年の第13回全国大会は関西ブロックの方々が引受け下さり、準備を開始されている。

（本稿文責：吉田 彪）

～ ～ 編集後記 ～ ～

本誌の発行日が近づくころ毎回苦労していることに紙面の割り付け作業がある。予定した原稿がほぼ集まった発行日の2週間ほど前、出版部会（編集委員会）で相談する。印刷は本部事務所でやるのだが、印刷機のセットの都合上、全体を4で割れる数、20頁とか、24頁に割り付ける。実際に配分してみるとタイトルの字体やスペースの取り方の違いで、19ページになったり21ページになったりで、印刷寸前まで苦心する。本号も例外ではなかった。前号はなんだかぎっしり詰めすぎて、息苦しいという印象を持った方が多かったので、本号は少しゆったりした配分にしようとしたが皆さんの感想をお聞きしたい。それにしても今回は本体とは別の差し込み印刷物が多かった。全国大会のチラシや申込書など本誌そのものと同じように重要な案内や情報が入っているので注意して読んで欲しい。本誌の内容も寄稿して下さる方々の力作のおかげで、毎号少しずつ充実してきているのではないかと編集委員会は自負している。本号の読みごたえは如何なものだろうか。残念ながら今までのところ皆さんの本誌各号に関する感想が届けられてないので、何時も編集委員たちの自己評価だけに頼ってしまう。皆さんのご感想を首を長くして待っている。メール、手紙、電話、どんな手段でも良いので是非皆様からの感想（記事の批判、掲載希望記事、全体のスタイル、などなどについて）をお送り願いたい。（吉田 彪 記）

お知らせ

2009年度 3日・5日間 研修会のご案内

臨床パストラル教育研究センター

| 研修場所 | 研修期日 | 科目 | 講師名 |
|--------------|----------------------|-----|--------|
| 東京・慈生会病院 | 4月29日(水)～5月3日(日) | | 国枝欣一 |
| 鹿児島 | 5月2日(土)～6日(水) | | キッペス |
| 東京・慈生会病院 | 5月5日(火)～9日(土) | | 野村祐之 |
| 東京・聖母病院 | 5月18日(月)～22日(金) | | W・キッペス |
| 熊本・イエズスの聖心病院 | 5月25日(月)～29日(金) | | 中島保寿 |
| 東京・サンパウロ | 7月22日(水)～26日(日) | | 国枝欣一 |
| 東京・サンパウロ | 9月19日(土)～23日(祝水) | | W・キッペス |
| 姫路・聖マリア病院 | 9月28日(月)～10月2日(金) | | 中島保壽 |
| 仙台 | 10月10日(土)～12日(月) | | W・キッペス |
| 熊本・イエズスの聖心病院 | 10月19日(月)～23日(金) | | 盛 克志 |
| 東京・聖母病院 | 11月30日(月)～12月4日(金) | | W・キッペス |
| 熊本・イエズスの聖心病院 | 12月7日(月)～11日(金) | 聖職者 | W・キッペス |
| 東京・聖母病院 | 2010年1月25日(月)～29日(金) | | W・キッペス |
| 鹿児島 | 3月20日(土)～22日(月) | | W・キッペス |

科目 : 人間関係とコミュニケーション・傾聴、科目 : 価値観の明確化、科目 : スピリットとスピリチュアル
 科目 : スピリチュアルな痛み、科目 : スピリチュアルケア、科目 : 哲学的人間論
 科目 : 神学的・宗教的人間論、科目 : 心理的・哲学的・神学的/宗教的人格の統合(個人の成長と成熟)

お申し込み問い合わせ先: 研修事務局 TEL/FAX 0465-42-5989 田中まで

一日研修会日程

| | | | |
|------|-----------|-----------------|---|
| 仙台: | 12・13回 | 4月25日・26日(土・日) | <北海道ブロック> TEL&FAX:011-774-9835 菊地 |
| 鎌倉: | 13・14回 | 6月6日・7日(土・日) | <東北ブロック> TEL&FAX:022-241-5029 小野 |
| 福岡: | 1回 | 追加 6月27日(土) | <関東・甲信越ブロック> TEL&FAX:042-304-3272 相知 |
| 仙台: | 14・15回 | 6月27日・28日(土・日) | <南関東ブロック> TEL:0466-36-1498 佐々木 |
| 鹿児島: | 2・3回 | 7月4日・5日(土・日) | <北九州ブロック> TEL 096-352-7181 FAX 352-7184 加藤 |
| 東京: | 13・14・15回 | 7月18日(土)～20日(月) | <南九州ブロック> TEL&FAX:099-248-2412 松村 |
| 鹿児島: | 4・5回 | 10月17日・18日(土・日) | |
| 札幌: | 1・2回 | 10月24日・25日(土・日) | |

お申し込み問い合わせ先は各ブロック担当へお願いします。

2009年度 オリエンテーションのご案内

| 研修場所 | 研修期日 | 備考 | |
|------|-----------|------------|--|
| 東京 | 5月16日(土) | ニコラバレ(105) | スーパービジョンを各地で開催するための交通費と必要経費を均等に負担していただく 相互扶助代 として、参加者には1回2,000円のご負担をお願いします。それをプールした中から、担当者が各地に赴く交通費がまかなわれ、遠方からの参加者の交通費の一部が援助されます。(交通費1万円以上の方には相互扶助代が免除されます) |
| 東京 | 6月28日(日) | ニコラバレ(104) | |
| 鹿児島 | 9月20日(日) | | |
| 北海道 | 11月16日(月) | 札幌 | |

お申し込み問い合わせ先は各ブロック担当へお願いします。

スーパーヴィジョン 2009 年日程

東 京：原則として第 2 木曜日午後 2 時から場所は本部事務所、
 仙 台：9/19、2010-1/16 北海道：4/25、11/15 岡山：6/14、15 神戸：5/13、6/7、8/29
 久留米：毎月第4木曜日の15:30～17:30 希望者 場所は、久留米えるピア
 鎌 倉：原則として第 2 月曜日午後 1 時から
 聖ヨゼフ病院：原則として偶数月午後2時から(日程は未定)
 (いずれも参加者はブロック担当者に事前にご連絡ください)

担当者連絡先:

東 京：〒158-0095 東京都世田谷区瀬田 1-28-2 担当:木澤 寛子
 TEL 03(3700)3425 FAX 03-3700-3427 e-mail: pastraltokyo@y8.dion.jp.ne
仙 台：〒981-1102 仙台市太白区袋原1-13-2 022-241-5029 小野照子
岡 山：〒701-1211 岡山市一宮 154-37 086-284-2148 児玉寿美子
北海道：〒002-0856 札幌市北区屯田六条7-3-3-608 TEL/FAX 011-774-9835 菊地秀治
神 戸：〒651-0051 神戸市中央区 神戶通4-7-15上春日野1イ402 T&F 078-261-2820宇根節
久留米：〒860-0079 熊本市上熊本二丁目11-24 TEL 096-352-7181 加藤理人
鎌 倉：〒248-0032 鎌倉市津550 聖母訪問会・モンタナ第2修道院内
 TEL 0467-32-4613 FAX 0467-32-4274
 mail: joiegekomasuo@visitation.or.jp 担当:益尾 悦子
聖テレジア会本部事務局(聖ヨゼフ病院)：〒248-0033 鎌倉市腰越1-2-20
 TEL 0467(31)1360 FAX 0467(32)6330 担当:四方利栄

スーパーヴィジョンの詳しいことは各ブロック担当者までお問い合わせください。

フォローアップ研修のエニアグラムを通しての スピリチュアルな旅ワークショップのご案内

| | |
|--------------------|--|
| と き: | 2009 年 10 月 2 日～5 日まで |
| と ころ: | 聖霊修道院マリア館(東京都小金井市桜町 2-1-43) |
| 参加資格: | 研修生、研修中、研修終了の方、認定を受けた方、他のミニストリーに携わっておられる方も若干名可能。 通いでも、泊まりでもどちらでも可 |
| 定 員: | 10名まで |
| ファシリテーター Sr. 益尾 悦子 | |

<申し込み・問い合わせ>

〒248-0032 鎌倉市津550 聖母訪問会・モンタナ第2修道院内 益尾まで
 TEL 0467-32-4613 FAX 0467-32-4274

出来るだけ早くお申し込みください!!
お申し込み締切: 2009年7月末日 まで